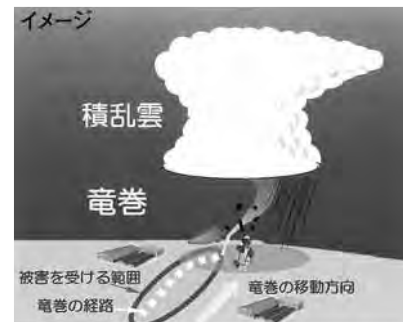


竜巻注意情報 ～身の安全を確保しましょう～

竜巻は、発達した積乱雲に伴って発生する激しい渦巻きで、ろうと状や柱状の雲を伴っています。台風、寒冷前線、低気圧などに伴って発生し、短時間で狭い範囲（長さ数km、幅数十～数百m）に集中して甚大な被害をもたらします。平成18年11月7日午後1時23分、オホーツク管内佐呂間町で発生した竜巻では、死者9名、負傷者29名、住宅の全壊10棟、半壊8棟など大変大きな災害が発生し、竜巻の怖さをあらためて教えられました。

気象台では、竜巻発生の可能性に応じて、段階的に次のような情報発表を行います。

- ① 半日～1日前：「気象情報」を発表。
「竜巻など激しい突風のおそれ」と明記します。
- ② 数時間前：「雷注意報」を発表
落雷、ひょう等とともに「竜巻」も明記します。
- ③ 0～1時間前：「竜巻注意情報」を発表



今まさに竜巻の発生し易い“危険な気象状況”

になっていることをお知らせして、身を守るための行動の準備を促します。

竜巻などの激しい突風は積乱雲に伴って発生しますので、竜巻注意情報が発表されたら、まず空の状態に注意を払ってください。何もないければ特段の行動は不要ですが、発達した積乱雲の近づく兆しを察知した場合には、頑丈な建物内に移動するなど、身の安全確保に努めてください。「竜巻注意情報」の発表から約1時間は注意してください。危険な気象状態が続く場合は、改めて情報を発表します。なお、9月2日からは、竜巻発生の目撃情報を活用した竜巻注意情報の提供も開始しています。

発達した積乱雲の近づく兆しとは、

- ◆ 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる
- ◆ 雷鳴が聞こえたり、電光が見えたりする
- ◆ ヒヤッとした冷たい風が吹き出す
- ◆ 大粒の雨や「ひょう」が降り出す



気象台では、“竜巻発生確度ナウキャスト”で10km四方の格子単位で竜巻などの激しい突風の発生する可能性を解析し、その1時間先までの移動予測を行っています。発生確度2（竜巻などの激しい突風が発生する可能性があり、竜巻の発生に注意が必要）と発生確度1（発生確度2の地域よりは低いですが、竜巻などの激しい突風が発生する可能性がある）の2段階で表します。ナウキャストで最新の状況を確認してください。

◎問い合わせ先

旭川地方気象台（電話：0166-32-7102）

旭川地方気象台ホームページアドレス

<http://www.jma-net.go.jp/asahikawa/>

